

二〇一八年度国文学会彙報

二〇一八年二月九日(日) 寧靜館五階會議室

・伝統文化継承者成果発表

小笠原流煎茶道 煎茶会へのいざない 本学学部生 花田貴充

・講演 同志社大学文化学会共催

近代化のなかの日本の「茶文化」 本学教授 佐伯順子

——国際化と男女共同参画——

・伝統文化継承者成果発表

書道の魅力と臨書と創作の面白さ 本学学部生 大川真嬉

・講演

竹田からくりの世界 本学教授 山田和人

△国文遊歩▽ 学生会主催

第一回 二〇一八年六月一〇日(日)

三室戸寺、源氏物語ミュージアム

第二回 二〇一八年二月二日(日)

醍醐寺、伏見稲荷大社

△講演会▽ 院生部会主催

二〇一八年一月三日(土) 良心館四階四〇一教室

能・狂言と古典教育

——視覚的情報を活用したテキストの有効性——

三宅晶子(横浜国立大学教授)

二〇一八年度国文学会活動状況

△新入生歓迎会▽ 学生会主催

二〇一八年四月五日(木) 新島会館

△国文学会総会・研究発表会・講演会▽

二〇一八年六月二四日(日) 良心館三階三〇五教室

・総会

・研究発表

『源氏物語』紫上の和歌の特質

——光源氏との贈答に注目して——

本学大学院博士後期課程 風岡むつみ

『羅生門』『枕草子』における伝統的な言語文化に係る教育実践

大阪府立茨木工科高等学校教諭 小森一輝

・講演

「形容詞文」の可能性

——国文法の発展的継承に向けて——

本学助教 山本佐和子

△国文学会伝統文化継承者成果発表会・講演会▽

〈ゼミ相談会〉 学生部会主催

二〇一八年一月一六日(金)・二一月二〇日(火)

良心館 一階 一〇六教室

〈国文合宿〉 院生部会主催

二〇一九年三月四日(月)～五日(火)

石川県金沢市

〈同志社国文学〉

第八九号 二〇一八年二月二〇日発行

収載論文四編、実践報告一編、資料紹介二編

第九〇号 二〇一九年三月二〇日発行

収載論文八編、実践報告一編、資料紹介二編

〈国文学会会報〉

第四六号 二〇一九年三月二〇日発行

二〇一七年度博士論文題目

『宇治拾遺物語』夢說話の研究

趙 智英

谷崎潤一郎と中国古典

李 春草

—— 受容の実態と軌跡 ——

古代日本語の因果関係を表す接続表現

楊 瓊

—— 漢文訓読の影響を中心に ——

二〇一八年度国文学会彙報

二〇一八年度修士論文題目

『懐風藻』における松

—— 『文選』との比較を通して ——

武蔵 隼斗

『憑き物の物狂』考

山本 愛奈

中島敦『斗南先生』の「時代的意義」

—— 昭和初期の漢学者の位相と『支那分

出口 京香

割の運命』の持つ批評性 ——

シヨールからゲームへ

—— 〈疑似イベントもの〉における筒井康隆の実践 ——

井上 大佑

副詞「スナハチ」の史的考察

—— 漢文訓読の影響を中心に ——

胡 鴻洋

二〇一八年度卒業論文題目

黄泉国の存在場所について

吉田 実央

「三種の神器」の必然性と成り立ちについて

矢川 太智

『豊後国風土記』における白鳥伝説と作物について

佐々木 周平

『古事記』上巻における神々への呼称の選択基準と

上代人の神への認識の考察

吉村 都香

舒明天皇国見歌論

——「国原は 煙立ち立つ 海原はかまめ  
立ち立つ」の実景性について——  
山田 涼太

「河内大橋を独り去く娘子を見る歌」について

武内 沙里奈  
上代のかみなりについて  
赤堀 美紗

——蛇雷一体の解釈を中心に——

尾上 亜希子  
上代文学における「蛇」

配列で読む『古今和歌集』

——春の歌を中心に——  
三浦 宏章

『竹取物語』における男性の役割

——〈男の恋〉と表現描写から——  
塚本 三喜

『源氏物語』空蟬の人物形成について

——歌ことば「うつせみ」の影響から——  
藪下 愛実

六条御息所の人物像再考

末摘花と常陸との関係について  
山田 有里

明石の君の「身のほど」意識における役割

呼称から見る玉鬘の役割  
戸田 早紀

『源氏物語』若菜下巻 光源氏の「空酔ひ」

——朱雀院五十賀試案の夜——  
瀧山 嵐

『源氏物語』における薫の体香の意味  
前西 祐季

『大日本国法華経験記』所収説話の内省性  
高山 卓

『今昔物語集』本朝部における蛇の性質  
奥山 嘉

中世説話集における陰陽師

——『今昔物語集』に登場する陰陽師比較を中心に——  
木村 綾乃

『今昔物語集』巻第二十七「人妻、死後会旧夫語第二十四」  
の特質

——『考訂今昔物語』との比較を通して——  
松澤 佑太郎

『古本説話集』大齋院説話考  
熊谷 耕作

『古本説話集』大齋院説話考  
青侍の致富譚

——観音に支えられた「藁しべ長者」——  
近藤 明日香

中世説話において怪異と遭遇する場所  
石川 志保

和歌における富士山・吉野山・竜田山の変遷

——『万葉集』『古今集』『新古今集』を中心に——  
谷川 侑子

定家詠「来ぬ人を」の世界  
大濱 萌花

徒然草の世界  
増田 理加

——兼好法師が描いた人々——

延慶本『平家物語』における頭共出現と清盛の死の関連

——延慶本『平家物語』第二中冊三を中心に——

東 茉奈  
大川 真嬉

『源平闘諍録』 改変をめぐる一考察

『平家物語』 「宝剣説話」 諸本の比較と「宝剣」の意義

四十 沢 碧  
中 嶋 佳奈愛

劍卷における刀劍の役割

覚一本で描かれる源頼政

森 田 夏代  
藤 尾 万 椰

木曾義仲と今井兼平の関係性

『平家物語』の俊寛

各諸本の俊寛の動作から

沓 野 早 恵  
出 口 慶 子

『閑吟集』における天象

雪・星・風の小歌について

小 田 原 由 季  
川 崎 春 佳

謡曲「生田敦盛」考

謡曲「藤戸」考

大 田 果 央 莉  
道 端 大 樹

『玉藻前説話』の性格

諸本比較を中心に

『おくのほそ道』における芭蕉の求める漂泊の旅

近松門左衛門 世話物の敵役について

延 田 奈 々  
稲 富 悠 奈

『五十年忌歌念仏』にみる女性道行の特徴

『嬬山姥』四段目の解釈

竹 田 奈 央  
小 林 麻 由 美

『家族』の復讐劇

——『平家女護島』四段目を中心に——

『二童敵討』における「敵討」観の成立

草双紙の「昔話もの」における黄表紙作品について

石 橋 佐 紀 子  
小 菅 純 奈

——「猿蟹合戦」を中心に——

鶴屋南北の「殺し」について

元禄歌舞伎におけるお藤について

中 野 梨 紗 子  
一 丸 奈 央 佳

与謝蕪村「又平に」自画賛の酒脱性

『春色辰巳園』仇吉論の再考

——四編第八条以降の扱いについて——

女装という視点から見たお嬢吉三

妖怪観の変遷に伴う妖怪の娯楽化

歌舞伎衣裳の色彩

山 田 綾 香  
山 根 圭 乃 子

視覚効果とその背景

夏目漱石『草枕』にみる翻訳の可能性と限界

『彼岸過迄』

——洋杖の性質と役割——

吉 岡 利 樹

「沼夫人」と鏡花のファム・ファタール

中村友美

田山花袋『蒲団』を通してみる近代化における女性とその周囲

藤田詩織

石川啄木『一握の砂』の「煙」の章の再考

横山周平

——「汽車」と〈塗り絵〉から——

文学教育に見られる諸問題

濱澤こと乃

——『羅生門』の読解を通して——

志賀直哉『濁った頭』論

長岡優

——志賀直哉の性と文学——

宮沢賢治「オツベルと象」論

池田修人

——転換期における「心象スケッチ」——

宮沢賢治「注文の多い料理店」の表現の可能性

野島真知子

宮沢賢治と西洋料理の関係から読む「注文の多い料理店」

小川遥夏

青の作家・宮澤賢治を考える

村地春美

——「銀河鉄道の夜」の場合——

賢治の描く宝石の意味

——「十力の金剛石」と「銀河鉄道の夜」に着目して——

森亮子

小川未明「赤いろうそくと人魚」

——「人魚」と「神さま」の重なり——

永渕文菜

新美南吉きつね童話論

——尾張民話におけるきつねの在り方から——

谷口可奈

梶井文学の主題に迫る

——『冬の日』における「明」と「暗」を中心に——

仲田勇輝

谷崎潤一郎『痴人の愛』

——讓二とナオミの役割とは——

曾我健太

谷崎潤一郎『猫と庄造と二人のをんな』論

——その同時代性をめぐって——

川西由夏

江戸川乱歩「人間椅子」論

市川拓海

江戸川乱歩の人形愛

——「人でなしの恋」「押絵と旅する男」を中心に——

森本恵美

「押絵と旅する男」論

——華やかなモダン社会から現代——

西口幸佑

夢野久作『あやかしの鼓』論

——浮上する自己——

安西優泉

真偽判定における語り手と聞き手の作用

——「死後の恋」を中心に——

山本 皓葉

夢野久作「木魂」論

——久作の生涯から紐解く作品の魅力——

溝部 智恵

昭和初期の少女たちの樂園

——『乙女の港』にみる「エス」の文化——

辻尾 大樹

吉屋信子の婦人観

——『花物語』『燃ゆる花』を起点に——

藤田 実佑

佐多稲子が「描きたいもの」

——「三等車」と「水」を通して——

西野 朋夏

萩原朔太郎『猫町』

——朔太郎作品の動物描写に関して——

寛 涼音

短編から見る、川端康成にとつての「化粧」

『眠れる美女』論：L.F.D.G

原 賢文

作家中島敦は何を書きたかったのか

——『季陵』を中心に、中島敦と運命の関係——

神谷 享佑

井伏鱒二の初期作品における生き物作品に見る「くったく」論

——「山椒魚」を中心として——

十河 香菜子

井伏鱒二作品における昆虫の効果

酒井 優花

太宰治短篇小説研究

——「魚服記」「親友交歓」「桜桃」——

大嶋 智美

太宰治「皮膚と心」論

——同時代的に見た「私」の姿——

小寺 麻世

太宰治「惜別」論

——国策文学における偽りの友情——

馮 賽

坂口安吾「風博士」論

——テクストと読者——

藪田 笙

坂口安吾「真珠」論

——「突きくずされ」続ける〈歴史〉——

南村 元太

坂口安吾「肝臓先生」の語りの構造が持つアイロニー

所谷 萌

織田作之助「世相」

——嫉妬のテーマと公判記録焼失の関係——

森本 瑛大

「仮面の告白」

——語りの構造とフロイトの精神分析を中心として——

永田 恒右

武田泰淳『女の国籍』論考

—— 国文学論争と混血女性をめぐる考察 ——

坂口比奈

安部公房「鞭」論

高野敦

大江健三郎『飼育』論

加藤太地

—— 虚構化された戦争体験をめぐる ——

「空の怪物アグイー」論

宮本元

—— 悲しみをみつめ、想像するために ——

遠藤周作『わたしが・棄てた・女』論

東千晶

—— 戦後社会を生きた〈平凡な聖女〉 ——

「沈黙」—— その主題と、ロドリゴと読み手の関係性に見る救い

梁川由貴

遠藤周作「宿敵」論

北川まりい

福永武彦「未来都市」における実験小説的試み

笠井貴晶

「ポッコちゃん」論

川原大吾

「燃えよ剣」論

丸尾樹広

—— 司馬遼太郎の描く土方歳三像 ——

身振りとしての羊男

—— 村上春樹をめぐる商品性についての一試論 ——

後藤大介

村上春樹「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」論

—— 「影」を中心に ——

山田詠美『カンヴァスの枢』論

—— 「カンヴァス」の二つの意味 ——

新聞の漢字表記の「ゆれ」について

矢野沙織

カタカナ表記の機能と表現について

山本ちよみ

漫画作品における文末・文節末の「ッ」の機能について

—— 『ジョジョの奇妙な冒険』を中心に ——

小出将大

「熱意」に関係する類義語

—— 「努める」「励む」「努力する」の比較 ——

矢吹恵梨

「天」(テン・あめ・あま)を含む名詞語彙の変遷

園田咲

「消ゆ」「失す」の研究

山川薫

「こわれる」「つぶれる」の意味比較

吉川理恵

若者言葉「やばい」の意味用法の研究

座喜味侑花

複合辞的表現「と思うと」類の諸形式について

——「同時性」と「対比」による比較—— 藤川実結

「赤い鳥」における敬語表現

——宮原晃一郎の作品を例に—— 廣田優海

現代女性の一人称の特徴

——SNSを資料として—— 吉川千尋

邦訳『ライ麦畑でつかまえて』における罵倒表現

上田加奈恵

翻訳における女性語の変遷

——邦訳『ライ麦畑でつかまえて』の調査——

中城 凪

小説のタイトルの特徴と変遷

鐘井亮太

森見登美彦作品における「デアル体」の考察

岸本果芙紀

ミュージカルの歌詞の研究

——語彙・役割語・レトリックの観点から——

平山彩子

バラエティ番組の文字テロップについて

落合徳子

——音声と文字の違いに注目して——